
銀行強盗と警察官と高校生

うぐいす

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

銀行強盗と警察官と高校生

【Nコード】

N9006A

【作者名】

うぐいす

【あらすじ】

ある町の銀行強盗と警察と高校生の話。

前半

都心まで電車で一時間。

とても都会とは言えないが、そこまで田舎でもない閑静な住宅都市。

そんな町で今異常事態がおこった！

「近づくんじゃねえマップがよおお！！」

そう、銀行強盗である。

彼はこの町唯一の銀行に押し入り、現金を奪い取った。しかし、逃走しようとした時には、銀行の回りを警察に囲まれていたのだ。彼は銀行員の女性を人質に取り、警察と対峙していた。

「落ち着くんだ。そしてその女性を解放しろ。これ以上罪を重ねるな。」

「うるせえハゲ！！その頭で光を反射させて目をくらませる作戦かゴラァ！！」

「なる程。ハゲにはそんな利点が…。」

「おい山田君。今納得したな？」

「…いえ…そんなまさか…。」

「君は、左遷、という言葉を知っているか？」

「でも警部！！その頭は犯人逮捕につながる重要な利点があるじゃないですか！！」

「…それもそうだが…。」

「だがなあ。テメエの息子はその頭をみる度に思っんだ。僕もこうなるのかなあってな。息子に申し訳ないと思わねえのか？」

「山田君。君、左遷決定。」

「そんなあ。」

口は災いの元。

身を持って体験した山田君（26歳独身。彼女なし。愛犬に懷かれないのが悩み）であった。

警察の必死の説得を全く相手にしない犯人。
事態は膠着状態を迎えるかと思われたその時

「あれ？えっ何これ！！銀行強盗？すげえ！！おい、賢治！銀行強盗だ！」

「マジかよ！生銀行強盗？！テレビは？テレビ来てない！？」

「その内来るだろ。やべえ、俺らとうとうテレビデビューかよ！？」

「来る 때가来たか、テレビデビュー。覚悟はしてたけどよ。」

「よし！このまま世界取るか賢治！」

「取るか修也！」

「…山田君。彼らは？」

「…近隣の…高校生みたいですネ。」

迷惑そうな警察と左遷決定山田。
しかしこれは序章でしかなかった。

「何見てんだテメエら！見せ物じゃねえぞ！！」

「すげえ！！見せ物じゃねえとか本当に言う奴初めて見た！」

「サインもらおうぜサイン！！」

「サイン？しょうがねえなあ。」

まんざらでもない銀行強盗。

「…警部。説得っ空気じゃないですね。」

「…気にせず説得するか？」

「そうですね。」

「おい犯人。田舎の母ちゃんが泣いてるぞ。」

「うるせえ！家の母ちゃんは東京在住だ！」

「えっ、マジ？犯人さん、今度実家に遊び行っても良いですか？」

「あつ修也テメエ抜け駆けかよ。犯人さん、俺もいきたいです！！」

「おい君達、これは遊びじゃないんだ。早く家に帰りなさい。」

「うぜえハゲ！！」

「お前はル〇ンでも追っかけてろ！！」

そっぴや、今年の夏はル〇ンやんなかったね。
去年は劇画チックで引いたわ。

「警部、言われてますが？」

「子供の言うことだ。笑って流そうではないか。」

「それもそうですね。」

「税金泥棒！」

「お前の母ちゃんデベソ！」

さすがにカチンと来た警部だった。

その時警部は、テメエらたいして税金払ってねえだろ、と言いつ返そうとした。

しかし警部は見たのだ。隣の山田君がプルプル震えながら、泣く前の小学生のような顔をしているのを。

警部は山田君を頑張るが空回りの多い新人だと感じていて、実際の通りだった。

しかし警部にはわかった。今、頑張り屋な山田君に爆発前の時限爆弾のような物を感じた。

そして、爆弾した。

「デベソで悪かったなああああ！！！」

そう、彼の母はデベソだったのだ。

「デベソで悪いか？デベソが何かしたか？デベソの母ちゃんを持つ息子の気持ちかわかるかテメエ等にいい！！」

「山田君！落ち着け！悪くない！デベソは悪くないから一般人に銃を向けるな！！」

「おい賢治。あの人の母ちゃんデベソらしいぞ！」

「らしいな！じゃあデベソコールいっちゃう？」

「いつちやいますか」

そして始まった。

デーベース デーベース

そんなかけ声を高校生二人が始めると回りの野次馬達も便乗した。

何故か銀行強盗も。人質の女性も。更に銀行の中その他の銀行員から同僚の警察官まで広まった。

この一体感。

みんなで一つの事をやり遂げようとする一体感だ。
まさに青春！

そして彼らはやり遂げた。

「くっそお！！覚えてろよ！」

そう言っただけ泣きながら山田君は去った。

しかし、去り際に

「お前の父ちゃんズラあ！！」

前半（後書き）

二部にするほど長くないのですが、許して下さい。少し事情があります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9006a/>

銀行強盗と警察官と高校生

2010年11月25日17時54分発行